

情報連絡員報告・10月分

前月と比べ製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIが好転

～非製造業は対照的に悪化～

<東京都中央会>

10月の情報連絡員報告によると、前月とくらべて製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDI（前年同月比）は好転した。対照的に非製造業の売上高、収益状況、業界の景況のDIは悪化した。それを裏付けるように製造業の特記事項からは生産量の増加や稼働率が上昇したという報告があった。要望事項からは中小企業の経営に十分に配慮した上での政府系金融機関の統廃合・民営化の議論を望む意見があった。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- ・業界の景況は低迷しているが、原因がわからない。取引先の倒産が多く、売掛金の回収が悪化しており、この先の資金繰りにも影響が懸念される。

「木材・木製品」

- ・10月の景況はやや上昇したようだ。しかし、業界の構造的な変化は技術を重視する中小零細企業には厳しいものがある。

「化学ゴム」

- ・原油価格の高騰により溶剤・樹脂類の価格が高止まりしている。一部を除いて価格転嫁は実現していない。新製

品・技術の開発でコストアップに対応している。

「鉄鋼・金属」

- ・自動車の生産は好調だが、材料のアルミニウム合金が品不足と原油高の影響で高騰している。価格への転嫁は困難で苦慮している。
- ・10月は電力線の生産・販売ともに好調であり、生産現場では人手不足の声も聞かれたが原材料の高騰を価格に転嫁できず、きわめて苦しい状況が続いている。
- ・自動車関連、工作機械、造船関係が好調で生産は順調に回復している。しかし売上は増えているが材料の値上り分

の製品価格への転嫁が十分でないため、利益は伸び悩んでいる。今後も価格是正への努力が必要である。

「電気機器」

- ・需要は増えてきているが、採算は厳しく、全体として収益には結びついていない。ただし、昨年と比べて仕事量は確保されており、操業度は上昇している。

「その他製造」

- ・業界の稼働率は120%と高水準を保っている。しかし取引条件は好転しているものの、回復を実感するまでには至っていない。10年以上にわたる不景気で多くの人員が流出し、人手不足状況に陥っている。

「卸売業」

- ・出荷量は9月に続いて好調だが通信向け電線の原材料上昇分の価格転嫁が遅

れており、厳しい状況にある。

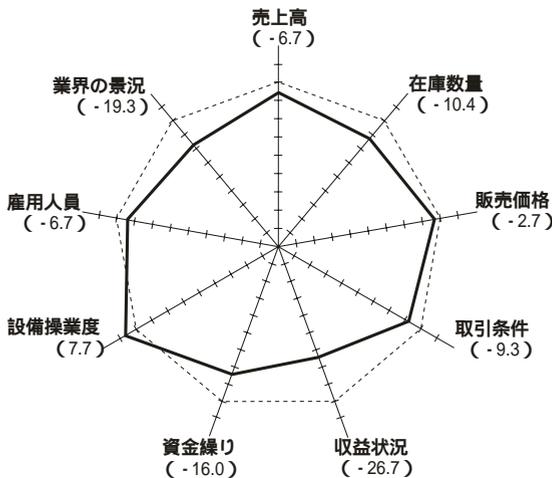
「小売業」

- ・豆腐の消費量は全国統計で前年比5～6%減少しているようだ。一般の小売店ではそれ以上に売上が減少し、低迷している。原油高の影響で包装資材が値上りを続け、価格に転嫁できなかった企業の倒産もあった。
- ・今年は台風の影響がほとんどなく、作物が豊作で価格は横ばいで推移した。特にみかん・リンゴは安価で豊作の年である。

<要望事項欄より>

- * 政府系金融機関の統廃合・民営化には中小企業の経営に十分に配慮した議論を強く望む。 [運輸業]
- * リサイクルできない物にはその旨の表示を義務化してほしい。 [サービス業]

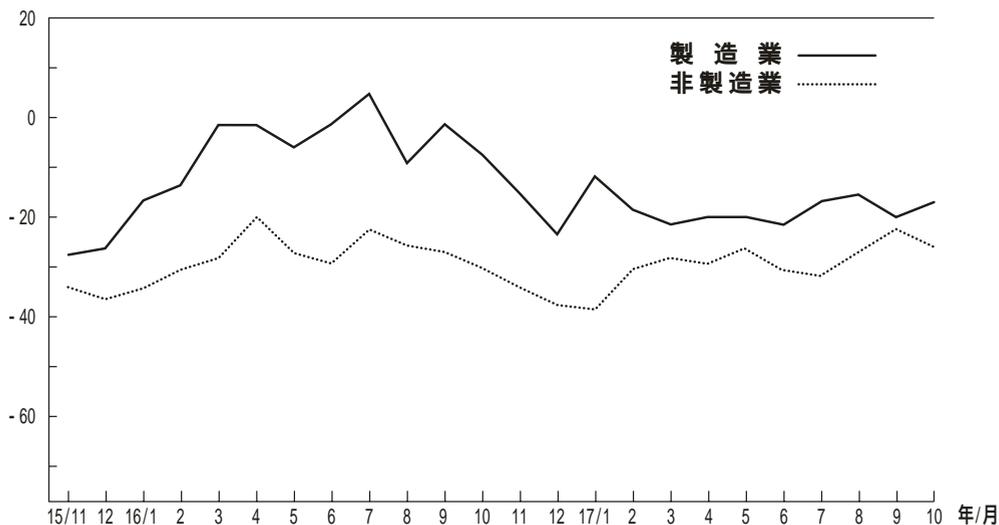
10月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）



(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

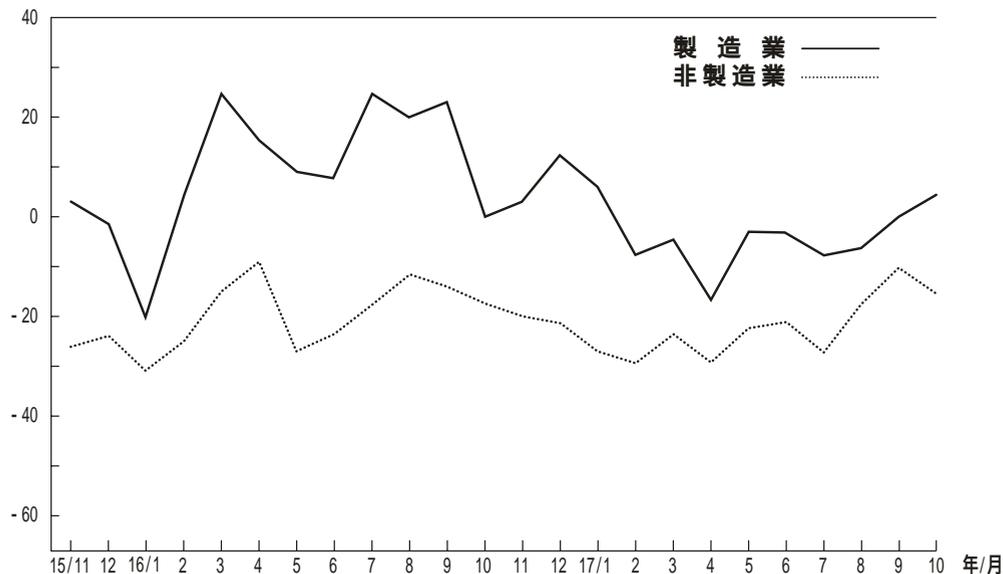
業界の景況DIの変化 (H15.11 ~ H17.10)

(前年同月比)



売上高DIの変化 (H15.11 ~ H17.10)

(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。